

「馬出」を備え、集中的な防御の構えが認められる。大馬出は大勢の城兵が守り、二方向からの通路を抑えている。築城家は、二の丸を防ぐことによって本丸、中の丸を守れると考えたようだ。

⑨行き止まりの曲輪（ふくろのねずみ）

「行き止まりの曲輪」とは、「ふくろのねずみ」という意味で、両端が狭い土橋になっていて行き止まりのような形になる。寄せ手側には行き止まりのからくりだが、城兵からとすると格好の馬出（出撃用）となり、実に巧みな防御が施されている。こうした「行き止まり」の曲輪は二の丸の南側にあり、大変貴重な城郭遺構である。

⑩中の丸南側の防御（櫓門の推定）

中の丸の南側は、二方向から攻め寄せた敵が合流できる場所だった。この場所には土橋の前面を守る防御設備が必要である。土塁の残り方から考えて、櫓門があったのではないかと推定される。

⑪中の丸（本丸の次に重要な曲輪）

「中の丸」の山腹には、腰曲輪と呼ばれる平場が多摩川に向かって数多く設けられている。このことから、北側の多摩川方面に対して警戒していたと考えられる。付近には河越道の渡河地点である「平の渡し」がある。この重要な地点を抑えるために滝山城が構築されたと考えられる。

⑫滝集落から本丸への侵入路（搦め手口からの侵入路）

本丸北西側の柵形虎口（出入口）は滝集落からの侵入路を抑えている。この侵入路を防御するため、出丸と本丸から挟み撃ちができるように工夫している（二方向から敵を挟んで攻める）。出丸の先端部分には馬出を備え、縦横の堀と共に強力な防御態勢を整えていたと思われる。

⑬本丸南側柵形虎口（小宮曲輪からの城道）

本丸の主たる出入口は2ヶ所ある。1ヶ所は中の丸から引き橋を渡って入る柵形虎口。もう1ヶ所は南側に設けられている。柵形虎口は敵の直進を防ぐための工夫である。もし敵がこの柵形虎口に侵入すると、体の左側に城兵の攻撃を受けることになる。現在でも柵形虎口が大変よく残っている城郭遺構である。



⑭本丸への木橋（最終的な砦へ導く橋）

当時の木橋はもう少し下に架けられていた。おそらく、中の丸に敵が押し寄せてきたら本丸へ半分程引き込むことができたと思われる。人工的に掘られた大堀切の上に架けられており、本丸が最終的な砦となっていた様子がわかる。「大堀切」はもっと深かったことが試掘によって確認されている。

⑮木橋（引き橋）

唯一尾根続きのこの場所は、滝山城の弱点であったと考えられる。そのため、防御は厳重を要した。この橋も「引き橋」だったと思われる。橋の下の堀は大池の土手とつながり、一大防御線を考えた縄張（城の設計）になっていた。

遺構説明板設置 平成24年3月 東京都建設局西部公園緑地事務所
文責 特定非営利活動法人 滝山城跡群・自然と歴史を守る会

ARアプリ滝山城跡 平成28年3月 八王子市（観光課）構築

戦国の名城（国指定史跡） 滝山城跡

発行日 平成29年8月1日

発行者 特定非営利活動法人 滝山城跡群・自然と歴史を守る会

H P よみがえる滝山城 (<http://takiyamajo.com/>)